

古典の日に関する法律制定10周年記念・文化庁京都移転記念 古典の日フォーラム2022&琉球王朝の華 組踊

古典の日推進委員会が永年の目標としていた「古典の日」の全国展開の第一歩を踏み出しました。全国持ち回りで開催している国民文化祭の今年度の開催地沖縄から、重要無形文化財「組踊」を上演していただきました。なんと、このフォーラムに参加いただいた81%が琉球舞踊や組踊を初めて鑑賞し、89%の方が「感動した！良かった！」と回答くださいました。上演くださった伝統組踊保存会は、組踊の保存継承のため次世代を担う伝承者育成、また全国を行脚して普及活動に取り組んでおられます。このフォーラムにお越しくくださった方から一人でも組踊のファンの方が出ただけを願っています。これからも「古典の日」は、全国と手を結び、その素晴らしい日本の古典を紹介していきます。

日時：2022年10月31日(火)午後2時～4時

場所：京都劇場(京都市下京区烏丸塩小路下る京都駅ビル内)

内容：総合司会 岩槻里子さん(NHK京都放送局アナウンサー)

〔第1部〕

◆テーマ曲「古典の日燦讚」と「古典の日宣言」

演奏：大谷祥子と六条山楽坊

宣言：山原優喜

第13回古典の日朗読コンテスト[京都府知事賞]受賞者 当時 浪速高等学校

◆主催者挨拶

古典の日推進委員会会長 村田純一

文化庁長官 都倉俊一

◆来賓祝辞

衆議院議員 勝目康

◆第37回国民文化祭「美ら島おきなわ文化祭2022」との連携

メッセージ：玉城デニー(沖縄県知事)



[第2部]琉球王朝の華 組踊

◆ I. 琉球舞踊

演目解説 宜寿次力(沖縄県教育庁文化財課)

地謡 歌・三味線	西江喜春(重要無形文化財人間国宝)
	仲嶺伸吾
	照喜名朝國
	玉城和樹
箏	宮城秀子
笛	大湾清之
胡弓	川平賀道
太鼓	比嘉聰(重要無形文化財人間国宝)



沖縄が琉球といわれた時代、国王が代わるごとに中国から国王を承認するための使者がやってきました。これを冊封といい、少ない時で400人、多いときで600人のお供を従えて中国からやってきました。彼らは春の季節風を利用して中国の福州から帆船に乗り、1週間から10日かけて琉球に辿り着きました。国王の代替わりの儀式が終わった後も秋の季節風を待つのですぐには中国に帰ることができず、およそ半年の間琉球に滞在しました。琉球王国は冊封使の滞在中、彼らをもてなすための多くの芸能を創作しました。冊封使の船が新しい国王に授ける王冠を携えていたことから冊封使を歓迎する宴で演じる芸能を「御冠船踊」と言い、近代に創作された新しい踊りに対して古典舞踊と言われています。本フォーラムで紹介していただいた古典舞踊は「老人踊」「若衆踊」「二才踊」「女踊」の4つに分類されます。

◆ 老人踊「老人老女」

踊り 川満香多 田口博章

扇子を持った翁と扇を持った媪が登場し、かぎやで風節にのって踊ります。この歌と踊りはたいへんめでたいものとされており、祝宴などでは必ず最初に歌い踊りたいへん有名な踊りです。ご来場の皆さまの健康とご多幸を祈念して幕明けの踊りとしました。

◆ 若衆踊「若衆こてい節」

踊り 宮城茂雄 玉城匠

若衆とは元服前の少年のことで若衆踊は花形の踊りでした。「若衆こてい節」も祝いの踊りで、笛と太鼓のリズムに合わせて登場した若衆が扇子を持って踊ります。太鼓は場を神聖なものに清めるとされ、歌詞は古今和歌集の源宗干が詠んだ「ときはなる松のみどりも春くれば 今ひとしほの色まさりけり」を改作したものとされています。

◆ 二才踊「下り口説」

踊り 上原崇弘

二才とは青二才。つまり若い青年のこと。琉球の歌は、八・八・八・六という偶数を基本とする琉歌のリズムですが、この踊りで謡われている口説は、七五調や七七音といった奇数を基本とした和文調子の歌です。このことから琉球の芸能が日本本土の文化や芸能の影響を受けたことを窺い知ることができます。踊りには、沖縄で生まれた空手と共通する所作も見られ、若者らしい潑刺とした動きに注目。薩摩での公務を終え琉球に帰るまでの船旅の様子を謡ったものです。久しぶりに見る首里城と迎えの人を目にした喜びなどが大きな所作で表現されています。右手に旅を示すチーグーシと呼ばれる小さな杖を持って踊ります。



◆女踊「天川」

踊り 新垣悟

女踊は、構えや足の運び、目のあて方、手や指のこなしなど、独特の技法があります。わずかな動きいわば最小限の所作で最大の感動を与えるところに女踊の魅力があります。曲目も恋をテーマにしたものが多く、恋心を躍っているといてもよいでしょう。「天川」は、池の畔で仲良く遊ぶ鴛鴦のように縁あって夫婦になったのだからいついつまでも添い遂げましょう、と永遠の愛を誓った歌詞に沿って踊ります。この踊りはものを持たずに躍る手躍りです。踊り手の艶やかな手の動きに注目です



◆ II. 組踊「執心鐘入」

立方責任者 嘉手苺林一

地謡責任者 西江喜春(重要無形文化財人間国宝)

配役 中城若松 宮城茂雄

宿の女 新垣悟

座主 嘉手苺林一

小僧 川満香多

田口博章

玉城匠

黒子 上原崇弘



〈あらすじ〉

美少年としてその名を知られた中城若松が登場します。若松は旧王国の都、首里に向かう途中で日が暮れてしまい山奥の一軒家に泊めてほしいとお願いします。しかし、この家の女は親が留守なので、宿泊させることはできませんと一度は断りますが、相手がかの有名な美少年中城若松であることを知ると喜んで家に招き入れます。安心して眠りについた若松でしたが、夜中に家の女が忍び込んできます。若松はこれを拒みますが、女はなおも若松に迫ります。恐ろしくなった若松は女を振り切って宿を逃げ出すのです。この内容は安珍清姫伝説に基づくものです。「執心鐘入」は歌舞伎の「京鹿子娘道成寺」、人形浄瑠璃の「日高山入相花王」でお馴染みの「安珍清姫伝説」の組踊版ということになります。さて、救いを求めて寺に駆け込んだ若松はいったいどうなるのでしょうか。

琉球舞踊は平成21年9月に国の重要無形文化財に認定されました。沖縄県からは組踊に続いて2件目です。2021年に琉球舞踊の立方で初めて重要無形文化財に指定され女性2人の人間国宝が誕生しました。舞台後ろの幕は筒描きという技法で制作された紅型幕です。松竹梅に鶴亀の吉兆柄が描かれたためでたいもので組踊の舞台を厳かに引き締めています。沖縄では伴奏者と呼ばず、地謡または地方と呼び、歌・三線、箏、笛、太鼓、胡弓で演奏します。沖縄の音楽というと、まず三線(さんしん)の音色を思い浮かべると思います。しかし、箏、笛、太鼓、胡弓も琉球古典音楽には欠かせないものです。

衣装にも注目。黒朝(くるちょう)といわれる着物に幅広の帯を締め、はちまきと呼ばれるかぶりものを頭に載せています。琉球王国時代、芸能家は当時の役人にあたる士族階級でした。地謡の服装は当時の芸能家の正装、礼服ということになります。

箏は沖縄でクトゥ、笛はファンソー、胡弓はクーチョーと言います。組踊の地謡というのは単なる伴奏ではなく舞台上の人物の心情や心の動きをセリフや所作以上に歌と演奏で表現するたいへん重要な役割があります。沖縄では今でも組踊を見るとは言わず、組踊を聴くと言います。組踊は琉球の言葉による演劇で、歌や舞踊を伴う音楽劇です。また、全員男性の芸能家によって演じられるのが特徴です。琉球王国時代中国からの使者、冊封使をもてなすことは国家の威信をかけた一大行事でした。琉球王国は、1718年国家の行事を取り仕切る役職である踊奉行に玉城朝薫(たまぐすくちょうくん)を任命。玉城朝薫は伝統芸能を集大成し、さらに日本の能や歌舞伎も取り入れ組踊を創作しました。翌年の19年冊封使式典の後に行われた祝いの場で初めて組踊が上演されます。組踊が創作、上演されてから300年以上の時を経ていますが、組踊は玉城朝薫の後にも創り続け、現在ではおよそ70演目が残っています。